

# 協会ニュース



## 自分たちの業務を見直す

年度末の総括をする時期になり、年度初めに立てた計画はどの程度実行できただろうか…と考えます。振り返る内容は数字などで明確に出る結果とそうでないことがあります。数字に表れるものもそこに至る背景や原因には目に見えるものとそうでないものがあります。「支援内容」については、数字などでは表せず振り返ることは難しい事ですがやらねばなりません。

どんな事業、組織も、閉鎖的にならない、風通しを良くする、第三者の視点を入れる、外部の声を聴く…などが必要だと言われます。それは「自分達では振り返りが十分にできない」という面があるからです。法人においては「第三者評価」などの導入が望ましいと言われてますし、グループホームにおいては「地域連携推進会議」が今年度より義務化されています。

しかし、振り返りの形だけ作っても、意識が伴わなければ効果は上がりません。私たちは、どうしても自分の都合のいいように言い訳をしてしまいます。もしかしたら、外部に対しての方が言い訳が多いかもしれません。しかし、他者が納得してくれたとしても自分自身はその言い訳に納得できるでしょうか。人は、自信がないとき、ごまかすときに多弁になる傾向があると言われます。自浄作用には「自問自答」「自己覚知」「ジレンマとの対峙」の視点は欠くことができないものだと思います。他者は納得してくれても、自分にやましさがあった場合、自分が納得できるでしょうか。もちろん、どうしようもない事情で、不本意ながら自分を納得させねばならない場合もあります。しかし、あまりに忙しくなったりすると、自分の胸に手を当てて考える時間すら取れないような事態にもなりかねません。自分自身に対しては言葉と時間を惜しみなくかけていかねばならないと思います。

私は自分に対して言い訳をしていると感じたときに、この言葉を思い出します。

「たとえこの世のだれが知らなくとも、おれが、このおれが知っている！」

「エースをねらえ」(山本鈴美香)で、桂コーチが亡くなった宗像コーチと交わした約束について言及したセリフです。他の誰かが自分を評価するのではない、自分が何をすべきなのかは自分が知っている、自分をごまかすことはできない、ということです。振り返りや自浄作用を形だけにしないために何ができるかを考え、行動化できるように努めていきたいと思います。

## <虐待防止研修会>

### R8.1.13 (1回目) 1.20 (2回目)

\*こんな場面です。

支援者と利用者が一緒に掃除を行いました。

「どの場所をやればいいですか」「ここも拭いたほうがいいですか」など利用者に聞かれたので話し合いながら、和気あいあいと掃除ができたようです。

ところが、ある利用者からこんな言葉が…。

#### 《利用者の言い分》

- ・掃除はしたくなかった。
- ・自分ばかり指示されて嫌だった。

#### 《支援者の言い分》

- ・掃除は希望をとり、参加していない人もいる。
- ・指示ではなく、参加者全員と話をして掃除をした。

\*支援者の言動に 賛成 ・ 反対

～賛成の立場で～

- ・利用者から希望をとっているし、不参加の人もいたので公平だ
- ・強制ではないので良いと思う
- ・雰囲気良く活動できていた
- ・事前に希望をとっているので意思確認ができています
- ・その都度、意見を聞きどうしますかと確認しているので間違っていない
- ・利用者の気持ちが途中で変わるのによくあることなので良いと思う
- ・参加者が少なく声掛けが多く感じただけなのではないか、支援者は悪くない
- ・作業中に一人一人の様子や気持ちを確認しながら対応するのは、作業全体のバランスも見ながら行わなければならない、難しいことだと思うから

～反対の立場で～

- ・多数決のように決めてしまったのではないか
- ・参加したくないと言えない雰囲気があったのではないか（1対全体だと否と言にくい）
- ・確認した時期も早すぎではないか（忘れてしまった可能性も）
- ・支援者の説明不足があったのではないか
- ・よく思われたいと思って参加すると言ったが、やっぱりやりたくなかったが本音なので、終わったときその後のフォローが必要だったのではないか
- ・途中で気持ちが変わることも想定して、その対応もしくは修正までを考えておく必要があった
- ・指示したつもりがなくても利用者にそう思われていたのは伝え方が悪かった
- ・利用者に対しての苦手意識は無かったか？その感情が相手に伝わって「自分ばかり言われた」「指示された」と感じたのではないか
- ・支援者の自己満足（みんなに聞いてみんなに決めてもらってやった）にならないような対応が必要ではないか
- ・参加していない人がいる中の作業。既に不公平な感じがする
- ・掃除だけでなく、別な作業もあってもいいのではないか

#### ディベート形式の話し合い

特定の議題について、あえて異なる立場に分かれて議論していく。

自分の意見に関係なく、肯定側・否定側のグループに分かれて、相手側に論理的に説得を試みます。

もし〇〇だったら…

《分かるように説明したいのだけれども…》

利用者それぞれの障害種別や程度・特性、理解度の違い、集団と個人の心理特性など…客観的、多角的な視野や論理的な考え方を身に着ける練習に…



# ジョイ 2026 やっつけたい鬼 ベスト9

**Y氏**  
病気の鬼(健康でいたいから)

**M氏**  
話を聞かない鬼(話を聞くようにしたいから)



**K氏**  
強烈な風の鬼(風が凄すぎるから)

**Y氏**  
怒る鬼(怒りたくないから)



**H氏**  
ものぐさな鬼



**H氏**  
怠惰な鬼(何事にも継続したいから)

**H氏**  
風の鬼(風邪をひきたくないから)



**Y氏**  
怠け者の鬼(親から自立するために頑張りたいから)

**Y氏**  
大雪の鬼(もう雪いらないから)



らーめんを食べる人々

## ひとコマ

ジョイを利用している Y さん。とても静かに過ごされる方で話しかけてもジェスチャーが多く、たまに小さい声で片言話す感じの方です。

そんな Y さんがジョイの豆まきに参加された時のことです。

「今日は豆まきで鬼退治するけど、Y さんは『なに鬼』を退治したいですか？」の問いに

「セブンには行かない」と小さな声で答えてくれました。

別なことを考えていたのかな？と思い、もう一度同じ質問をすると

「ん・・・・・・・・」と考え込んでしまったので、話は中断しておきました。

その後10分くらい後になって Y さんは職員のところに来てくださり、

「怠け鬼を退治したい」と小さい声で伝えてくれました。

「その鬼はどんな鬼なの？」の問いに

「ん・・・・・・・・」とまた考え込んでしまったので、またも話は中断しておきました。

その後、豆まきも無事終わりみんなでゆっくり過ごしていたところ・・・・・・・・。

Y さんが突然スタッフの所に来て

「自分は GH に入る時に親から自立するために入ったんだけど、まだダメなので怠け鬼を退治して自立したいです」と笑顔で、今まで聞いたことがないくらいの声でハッキリ伝えてくれました。

意思疎通が少し難しいと思っていた Y さんが、スタッフの問いに対して、ずっと考えて答えを出して伝えてくれたことにびっくりしました。

もしかしたら今までも色々考えていたために口数が少なかったりしていたのでは？と思うようになりました。

会話が続かなかったので話を中断するという対応をしていたのですが、今後は、「相手のペースに合わせる」ことを意識した支援ができるように頑張りたいと思う出来事でした。



## 編集後記

今年は会津でも桜の開花は早く、満開の処もちらほら。この時期、鶴ヶ城を中心に様々なイベントが行われ、周辺の道路は混雑します。夜になっても夜桜見物の方々でいっぱいです。

しかし、桜の木には寿命があり、花のつき方が少なくなっている木も多いです。まだまだ私たちを楽しませ、元気を与えてくれてはいるのですが、どこかで新しい木を植えるなどして世代交代をしていかないとあ・・・とってしまいます。(J)

